

「教育実習報告」

[私立 T 中学校・高等学校 英語] 氏名 : T.N

母校での教育実習は、長いようであつという間の 3 週間でした。実際の教育現場を自分の目で見て知ること、生徒の立場では気づけなかった教育現場の裏側や、教師の大変さを実感することができました。理想だけでは務まらない職業であると気の引き締まる思いと同時に、生徒との信頼関係を築かれている先生方を見て、教師という仕事のやりがいや魅力も感じました。ご指導くださった先生方、また生徒と関わる中で学んだことを二つの観点から書きたいと思います。

まずは教科指導についてです。授業見学や実際に授業をする中で、「プレゼン力」「生徒の反応を読む力」「活動の意図を理解させること」の大切さを学びました。最初はクラスや授業の時間帯によって授業の雰囲気が変わることに戸惑ったり、生徒の反応を気にするあまり自分の授業に自信を持ってないことが多くありました。しかし、指示の出し方や時間配分、テンポなど、小さなことを意識し、「プレゼン力」を発揮することが授業のクオリティを上げ、生徒の集中力の維持につながるのだと学びました。また、自信を持って授業をすることは生徒との信頼関係につながり、授業の雰囲気にも大きく影響すると強く感じました。「生徒の反応を読む力」においては、生徒の間違いや反応を先読みし、適切なタイミングでヒントを与えることで、生徒自身が考え・気づく授業につながると実感しました。それまでは、教師が授業で解説をすることが当たり前だと思っていましたが、解説の量を減らし、考えさせる時間を確保することが生徒の力につながると感じました。また、「活動の意図を理解させること」も大切だと学びました。例えば、ただ英文を読むだけの音読活動では生徒の力はつきません。どんな力をつけるためにやっているのか、次のどの活動につなげるための音読かを意識させることで学習の効果が上がるのだと知りました。

次に生徒との関わりについてです。教科指導、HR ともに男子クラスを担当させて頂き、最初はどうか接すればいいかわからず戸惑いました。何人かの生徒に話しかけに行くも、生徒も緊張しているのか話が続き、から回ってしまう自分が恥ずかしくもありました。そんな中、私は「焦らず、一人ひとりの生徒と少しずつ距離を縮めること」を大切にしていました。生徒と話した内容をメモに取るなどし、次の話のきっかけをつくることを心がけました。そうすることで、徐々に生徒が話しかけてくれるようになり、少しずつクラスに馴染むことができたと感じます。生徒達は皆礼儀正しく、とても素直な子が多いという印象を持ちました。男子校舎に入るといつも元気よく挨拶してくれる姿がとても清々しく、私自身も挨拶の大切さを改めて実感しました。また、私と同じ大学の学部を志望している生徒や、留学経験に興味を持ってくれる生徒など、私がこれまでに経験してきたことを生徒に伝えられたことが嬉しく、教師としてのやりがいを感じました。中学生の頃から自分の夢や目標を持って頑張っている生徒達を見て、私自身が刺激を受け、頑張ろうという気持ちにもなりました。

実習期間を終えた今、安堵する気持ちと同時に自分に教師としての資質が備わっているのかという不安な気持ちもあります。振り返ってみると、この 3 週間は自分の力不足、勉強不足を痛感する毎日でした。今一度教師としての適性を考え直し、卒業後の進路について真剣に考えたいと思います。また、生徒と関わる中で私自身たくさんのことを学ぶことができ、担当教員の先生の『教師は生徒に育てられる』という言葉を実感しました。将来教壇に立つ際には、生徒から学び、成長し続けることができる教師になりたい

です。教育実習で得た貴重な経験を糧に、これからも様々なことに挑戦したいと思います。